

核セキュリティに関わるアンケート(特別)

本資料では、原子力部門社員の核セキュリティに関する「意識および行動」について、核セキュリティ文化上の傾向を把握し、これに対する考察を行うために行ったアンケートおよびインタビューの調査結果について報告する。

1. 調査の概要

アンケートは、原子力部門の全社員と業務委託として警備を実施している委託見張人を対象にした。また、アンケートで得られた傾向・特徴に至った原因を探るためにインタビューを実施した。アンケート項目および調査対象者は以下のとおり。

(1) アンケート項目

IAEA (国際原子力機関) が発行した核セキュリティ文化に関する文献※を参考に、核セキュリティ文化と原子力安全文化を対比する形式にて、質問項目を構成した。また、核セキュリティだけでなく、業務に関する意見等を記載する自由記載欄を設けた。

※「IAEA Nuclear Security Series No. 28-T (Self-assessment of Nuclear Security Culture in Facilities and Activities2017)」

(2) 調査対象者

- ・ アンケート:原子力部門社員(福島第一、福島第二、柏崎刈羽、東通および本社:約3,500名)および委託見張人(約250名)。
- ・ インタビュー:福島第一、福島第二、柏崎刈羽の上層部、防護・運転・保全部門の社員および委託見張人の中から、サンプリング的に抽出(計約70名)。

2. 調査結果および考察

アンケート調査の結果、様々な核セキュリティ文化上の傾向・特徴が確認されたことから、インタビューを通じてその要因に対する考察を行った。主な「特徴」とその要因に対する「考察」は、以下のとおり。

特徴1:全体傾向として、核セキュリティ文化、原子力安全文化を形成する意識および行動の低調さは見られない。また、核セキュリティに関する意識および行動は、原子力安全に比べ低い傾向があるが、大きな差は見られない。

考察

- ・ 柏崎刈羽の事案後にアンケートを実施したため、回答に上向きのバイアス(意見の偏り)がかかっている可能性がある。
- ・ その根拠として、見張人の多くが他部門の人から敬意を払われていないと認識しており、見張人以外のインタビュー結果では、「核セキュリティを日頃から深く注意していなかった」といった意見が多く得られたことが挙げられる。このことから、アンケート結果

のように、意識および行動が高い状態とは言い切れない。

特徴2：個人の自己評価は高いが、リーダーや組織の実践状況については、比較的评价が低い。また、意識に関する設問（1, 3, 5）※では評価が高いが、行動に関しては比較的评价が低い。

※意識に対する設問1：法令・ルール・基本動作の遵守、設問3：役割と責任を認識・実践、設問5：リスクをもった技術・分野との認識。

考察

- ・ リーダーや組織の行動に関する評価の低さは工程優先やコストダウンの要求に対する不満の表れと推測する。リーダーは、それらの必要性を伝えているつもりでも、コミュニケーション力の不足により、メンバーを十分に腹落ちさせていない。
- ・ 核セキュリティの重要性の意識は高いものの行動が不十分と見なしているのは、核セキュリティに関する情報共有の制約や、業務上、協力関係を築く事が難しいものと思われる。また、核物質防護部門の業務スタンダードが明示されておらず、他部門と共有されていないことも一因と考えられる。

特徴3：発電所別（本を含む）、業務別、階層別で見ても、程度に差はあるが、評価の低い項目は共通している。人・予算等のリソースの不足、工程優先、コミュニケーションの悪さ、核セキュリティ情報の共有不足などへの問題意識が比較的高い。

考察

- ・ これらの問題意識が比較的高い項目は、原子力安全文化と核セキュリティ文化に共通している。特に柏崎刈羽では、一般職・特管職を問わず、繁忙感や閉塞感にとらわれ、到達さが乏しくなっていると推定している。

特徴4：柏崎刈羽の核物質防護部門（当社社員、委託見張人）では、リソース、コミュニケーションに対する不満感が特に大きい。

考察

- ・ 過去数年にわたり設備劣化を容認してきたことが、核物質防護部門職員の積極性を阻害してしまったと推定される。
- ・ 作業員が多いことから入退域時の待ち時間が長く、一部の比較的滞在期間の短い作業員が、見張人へ高圧的態度をとることが、しばしばあったことも一因と考えられる。
- ・ 福島第二では、これとは対照的に、2016年の核物質防護規定の遵守義務違反（警報表示機能の一時除外）以降に核物質防護設備の改良に取り組んだこと、入域者数が少なく待ち時間が短いこと、作業員との意思疎通が出来ていることなどが、高い意識に寄与している。

以上